

市民病院ニュース

Higashimatsuyama Municipal Hospital
東松山市立市民病院
〒355-0005 埼玉県東松山市大字松山2392番地
TEL:0493-24-6111 FAX:0493-22-0887

News from Municipal Hospital

第6号



～中学生社会体験チャレンジ事業～

市民病院では、市内の中学校が実施する“中学生社会体験チャレンジ事業”の受け入れを行っています。今年も、市内の松山中学校(写真)及び北中学校から、元気な女子中学生の皆さんが院内の様々な仕事を体験しました。どの生徒さんも、真剣な眼差しでスタッフの仕事を見つめ、慣れないながらも一生懸命にベッドメイクなどの作業を行っていました。

病院の仕事は、ドクターやナースをはじめとする医療職のほか、調理員、施設管理、医療事務など多くのスタッフが一つのチームとなって成り立っています。

病院の体験事業に参加された皆さんが、将来、チームの一員に加わってくれることを期待しています!

Contents

地域へのアプローチ展開中!.....	P2
スペシャリスト活動開始!.....	P5
平成28年度の取組状況.....	P6
外来担当医表.....	P8

地域へのアプローチ 展開中!

かつて平均寿命が60歳台だった時代には、急病の患者さんを収容し、回復のための治療を行い、社会に復帰させる「病院完結型」の医療が主流でした。

しかし、男女ともに平均寿命が80歳を超え、慢性の疾患を抱える高齢の患者さんが増えた現在では、病気と折り合いをつけながら、住み慣れた地域で自分らしい生活を送る患者さんを支えるための「地域完結型」の医療が求められています。

さらに、戦後日本の復興発展を担った団塊の世代と呼ばれる約800万人の皆さんが75歳以上となる2025年(平成37年)に向けては、医療と介護はもとより住環境の整備や病気の予防、生活の支援といったサービスが一体的に提供

される地域包括ケアシステムを構築していくことが課題となっています。

こうした中、市民病院は、在宅で療養されている患者さんが急に具合が悪くなった際の受入機能を向上させるとともに、入院された患者さんがご自宅への生活に安心して戻ることができるように退院時の支援を充実することで病院としての役割を果たしていきます。

併せて、市民病院の医療スタッフが様々な機会をとらえて地域にお伺いし、それぞれの専門分野で市民の皆様の関心の高い話題や最新情報などをお伝えすることで、病気と上手に付き合いながら、自分らしい毎日を過ごしていただくためのサポートにも積極的に取り組みます。

看護師やリハビリスタッフがご自宅にお伺いしています!

市民病院では、退院された患者さんが直ぐに再入院となったり、何度も入退院を繰り返すといったケースを予防するために、医療スタッフが退院の前後にご自宅にお伺いし、患者さんの状況を確認し、在宅で安心して生活していただけるように環境を整える取組を行っています。

まず昨年からは、担当の看護師が退院前後に何度か(具体的には退院前1回、退院後5回まで)ご自宅を訪問し、体調面の管理の指導や生活面での困り事の相談などに応じる取組をスタートしました。

また、今年の6月からは、リハビリスタッフによる訪問指導も開始しました。こちらは、理学療法士や作業療法士がご

自宅にお伺いし、玄関の段差の状況など生活環境を調査した上で、自宅内での日常動作の練習やご家族に対する介助方法のアドバイスなどをさせていただくものです。

いずれの取組も、市民病院のスタッフがご自宅での実際の生活を踏まえながら、適切な指導や助言を行うことで、少しでも早く退院したいという意欲を高め、退院後の生活への不安を和らげることにもつながっています。

また、必要に応じてケアマネジャーをはじめ、在宅サービスや福祉用具の担当者とも情報の共有を図ることで、スムーズな退院に結び付けることもできます。



ドクター清水のワンポイント“出前”クリニックを開催しました！

7月8日(土)、唐子市民活動センターにて「ドクター清水のワンポイント出前クリニック」を開催しました。この出前クリニックは、高坂地区、平野地区、松山地区に続き、4回目となります。

当日は35度を超える猛暑日となりましたが、約50名の皆さんにご来場いただきました。清水医師が、最近の人工関節置換術の動向や手術を検討する場合の留意点などについて約1時間お話をした後、参加者の皆さんからたくさんのご

質問やご相談をいただきました。

一口に人工関節と言っても、症状や年齢などに応じて様々な選択肢があることがご理解いただけたのではないのでしょうか。

清水医師の明快で親しみやすい語り口もあり、終始和やかな出前クリニックとなりました。

次回開催をお楽しみに！



丸広百貨店東松山店で健康講座 好評開催中！

市民病院では、昨年9月から丸広百貨店東松山店で健康講座を隔月で開催しています。医師をはじめ、薬剤師や看護師などの医療スタッフがそれぞれの専門分野で関心の高い話題や最新の情報などを取り上げ、分かりやすくお伝えしています。

毎回20名を超える方にご参加いただき、終了後も熱心に質問や相談をされる方が順番待ちをする姿が見られます。



健康講座の開催状況

	開催日	所属	講師		演題
第1回	平成28年9月13日(火)	整形外科	医長	清水 学	歩くことの重要性と最近の人工膝関節置換術
第2回	11月15日(火)	看護部	副科長	糸部 文子	知っているようで？知らない！「糖尿病」と「健康」のはなし
第3回	平成29年1月17日(火)	薬剤科	主任	高橋 陽太	薬のこと知っていますか？一体どんなもの？
第4回	3月22日(水)	リハビリテーション科	科長	國嶋 栄子	腰痛予防って？ -何をすればいいの？-
	3月29日(水)				
第5回	5月24日(水)	栄養科	科長	徳本 美幸	糖尿病食を簡単に!!
第6回	7月26日(水)	臨床検査科	科長	濱野 澄人	ピロリ菌検査について!

～第40回記念大会日本スリーデーマーチの開催に先立ち～ 「スリーデー健康講座プラス1」を開催します!

健康講座も9月で1周年を迎えます。これを機に、今後は市民病院だけでなく、市内の医療機関が連携協力をしながら、市民の皆さんに健康に関する話題を幅広くお届けする場にしていくことが望ましいと考えています。

その第一歩として、東松山医師会病院と埼玉成恵会病院にご協力をいただき、9月20日(水)から22日(金)まで3日間連続で健康講座を開催します。

この講座は、丸広百貨店東松山店で開催される健康フェアとタイアップし、また、本年11月東松山市を中心とする比企丘陵を舞台に開催される第40回記念大会日本スリーデーマーチにちなんで「スリーデー健康講座」と銘打って開催するもので、皆様のご来場をお待ちしています。

また、プラス1のイベントとして9月23日(祝)には、3病院合同で健康相談会を開催します。

■スリーデー健康講座プラス1

日時 平成29年9月20日(水)～23日(祝)午後2時～4時
場所 丸広百貨店東松山店 4階催事場(各回定員100名)
申込み・問合せ 市民病院 管理課 ☎24-6111

9月20日(水)

市民病院

「これならできる感染対策 ～インフルエンザ・ノロウイルスから家族を守る～」

講師

外来看護科副主幹
感染管理認定看護師 田中まり子



9月21日(木)

埼玉成恵会病院

「いつ起きるか分からない 災害に備えよう」

講師

日本集団災害医学会セミナーインストラクター
ICU師長 小林小弥香



9月22日(金)

東松山医師会病院

「運動と栄養」

講師

栄養科 管理栄養士
NST専門療法士 荒川すみ子

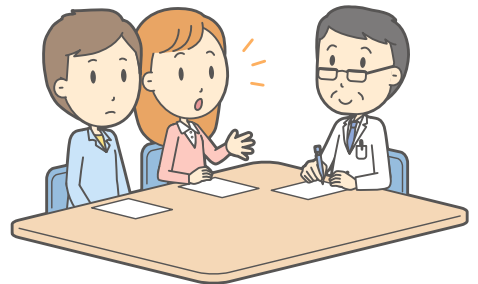


9月23日(祝)

健康相談会

3病院の経験豊富なスタッフが
健康に関する悩みや疑問に
わかりやすくお答えします!

当日、会場では血圧や血管年齢、
体脂肪率などの測定も行います。



スペシャリスト 活動開始!

一緒に働く仲間を募集中!!
市民病院では、看護師を募集しています。
詳しくは、市民病院管理課まで。

医療が年々専門化・高度化を遂げる中で、国家資格に基づいてそれぞれの専門分野を受け持つ医療スタッフ1人ひとりが糖尿病や感染症といった特定の領域のスキルを高め、チームワークを組むことでより安全で質の高い医療を提

供することが求められています。

市民病院では、医師の学会への参加はもとより、病院スタッフの資格取得や研修参加を積極的に支援しています。

看護部



■資格取得を進めています!

今年7月、認定看護管理者1名と感染管理認定看護師1名が新たに誕生しました。市民病院には、比企広域市町村圏組合から引き継いだ感染症病床が4床ありますが30年余り前の施設であるため、MERS(中東呼吸器症候群)や新型インフルエンザなど新たな感染症の脅威に対応するには、機能が十分ではありません。

今後は、担い手となる感染管理認定看護師の確保を契機として、施設や設備の改修を行っていくことが課題です。

また、日本集団災害医学会のインストラクターにも新たに1名が認定されました。

認定看護師になるには、職場を離れて1年間の研修を受けた後、試験に合格することが必要です。そのため、本人の努力はもちろんのこと職場や家族の理解と協力が不可欠です。

■資格を活かした取組をはじめています!

糖尿病認定看護師による看護相談室の取組

糖尿病は慢性で進行性の病気です。分かりやすく言えば、徐々に発症し、そのまま放置すると次第に悪くなってしま病病です。高血圧や脂質異常症などとともに生活習慣病とも呼ばれ、日々の生活が治療や経過に直接影響するため、患者さんが自分にあった自己管理の方法を見つけ、継続することで、病気と上手につき合っていくことが大切です。

市民病院の内科外来では、患者さんが自らの生活スタイルに合った自己管理を継続していただくことを目指し、糖尿病認定看護師がサポートに取り組んでいます。

具体的には、糖尿病に関する正しい知識を理解していただいた上で、血糖値をコントロールするための食事や運動などの生活習慣の留意点、内服薬やインスリン注射、自己血糖測定などの治療や処置に関する内容など患者さんからの相談に応じ、必要な助言や指導を行っています。

糖尿病では、血糖値がかなり高くても自覚症状が乏しい場合が少なくないため、食事制限など自己管理を続けることの負担感ばかりが募る結果、治療の中断に繋がりがやすい病気でもあります。

そこで、継続できる管理を目指して『患者さんといっしょに考え、患者さん自らが決める自己管理』というスタンスで、インスリン治療で来院された患者さんを中心にお話を伺っています。

主治医にはちょっと言いづらい療養上の悩みやストレス、毎日の頑張りなど患者さんそれぞれの思いの丈を自由に語っていただける場にしていきたいと考えています。糖尿病で治療中の方、血糖値が少し高いと言われてご心配の方など、是非お気軽にお声がけください。



1F 内科外来 看護相談室 月・火・金 午前9時～午後3時

事務部

病院経営を取り巻く環境が一段と厳しさを増し、診療報酬制度等が複雑化する中、事務職員についても市役所から人事異動した職員だけで対応するのは困難となっています。

そのため、平成28年度は大学病院等での勤務経験が豊富なスタッフを新たに2名を採用したほか、1名が病院経営管理士の認定を受けました。

区分	認定機関等	取得資格・人数
看護部	公益社団法人 日本看護協会	認定看護師(感染管理) 1名取得
		認定看護管理者(サードレベル) 1名取得
	一般社団法人 日本集団災害医学会	インストラクター 1名取得
事務部	一般社団法人 日本病院会	病院経営管理士 1名取得

平成28年度の 取組状況

市民病院では、平成23年度に策定した改革プランに基づいて、平成24年度から平成26年度までの3年間、病院職員が一丸となって診療内容の充実と経営の健全化に取り組み、一定の成果を上げることができました。

平成27年度以降も、医師や薬剤師、理学療法士などの医療スタッフの増員のほか、南館の建設などを進めた結果、平成28年度の市民意識調査では、東松山市でよくなった事業として「市民病院の充実」が第1位に選ばれました。

ここでは、平成28年度に引き続き取り組んだ主な成果をご報告します。患者数や手術件数、医療収益が順調に増えている反面、救急患者の受入件数などは伸び悩んでいます。

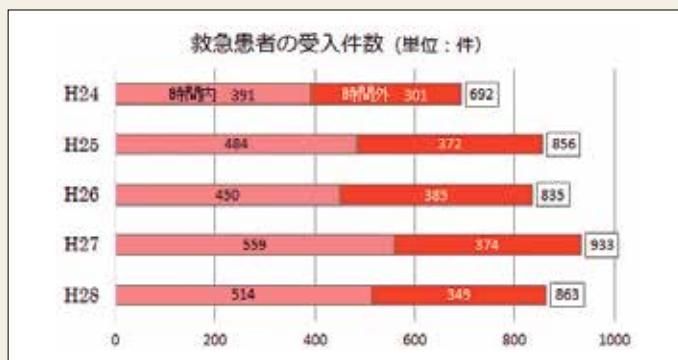
今後は、病院経営を取り巻く環境がいつそう厳しくなることが予想される中、平成29年度からスタートした新改革プランに基づいて、市民の皆さんから選ばれ、信頼される病院を目指し、さらに取組を進めていきます。

1 救急患者の受入件数

平成26年10月から比企地域の2次救急医療の輪番制に復帰しましたが、担い手の中心となる内科の常勤医師のしょうへい招聘が依然として難航していることもあり、その後の受入件数は一進一退の状況となっています。

平成28年度の受入件数は、時間内、時間外共に前年度を若干下回り、70件(7.5%)の減となりました。

参考までに、平成28年度の比企広域消防本部管内の救急搬送件数は、7,833件で前年度の7,902件に比べ、69件(0.9%)の減となっています。

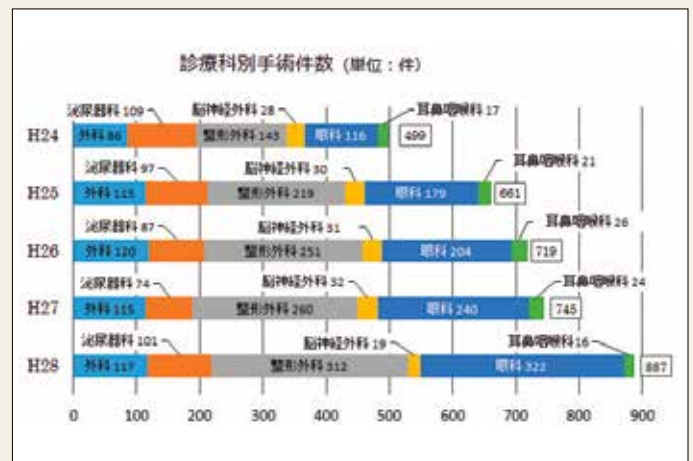


2 診療科別手術件数

前年度に比べ、全体で142件(19%)の増となりました。

整形外科が10月から常勤医師が3名から2名に減った(※)にも関わらず、52件(20%)の増となったほか、平成28年1月より常勤医師が実質2名体制となった眼科が82件(34.2%)、泌尿器科が27件(36.5%)それぞれ増加し、それ以外は横這い又は減少という結果となりました。

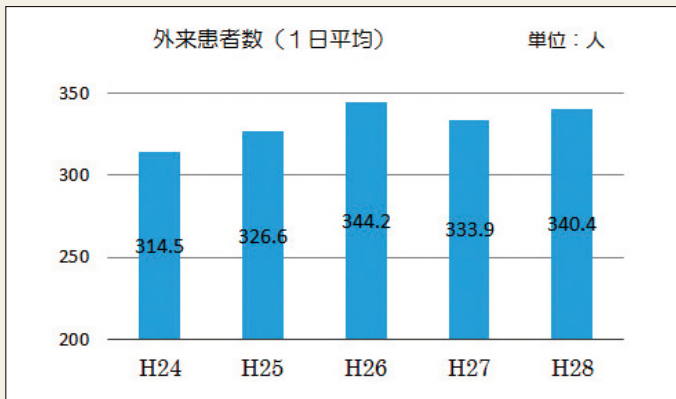
※平成29年4月から3名体制に戻っています。



3 1日平均患者数と平均在院日数

建替工事の影響もあり、前年度は入院・外来ともに患者数が減少しましたが、5月に南館がオープンした平成28年度は再び増加に転じ、2年前の水準をほぼ回復しました。



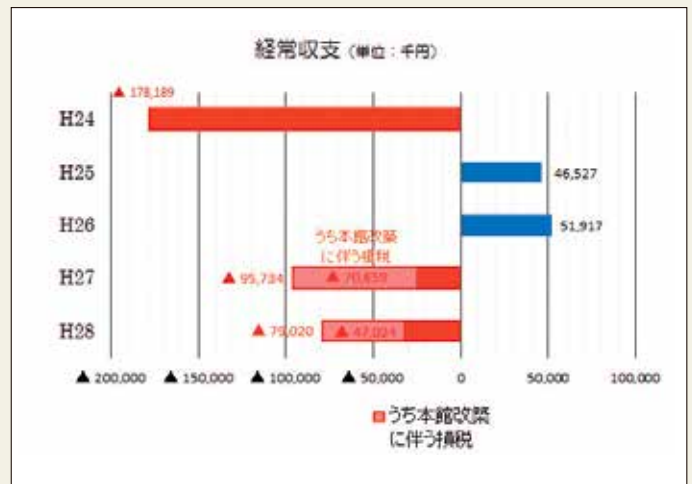


前改革プランに基づく取組をスタートした平成24年度以降、医業収益は年々伸び、5年前と比べて5億6,000万円余り(27.5%)増加しています。

5 経常収支

平成28年度は、前年度と同様に南館建設工事に係る消費税負担いわゆる損税^{かさ}が高んだことも影響して、7,900万円余り(損税を除くと3,200万円弱)の赤字となりました。

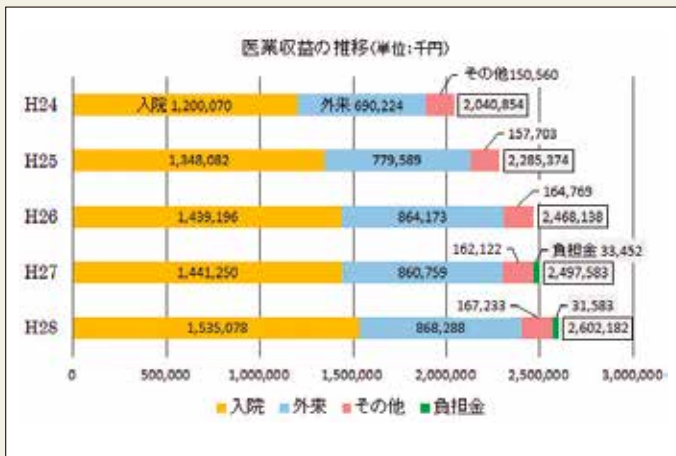
平成25年度以降の最近4年間のトータルでは、損税を含めて7,600万円余りの赤字となり、改革プランに基づく取組を通じて、経営の健全化までもう一步のところまでできています。



※平成28年度の医業収益、経常収支については、現時点での見込み額で、今後市議会で決算の認定を受けた後、はじめて確定するものです。

4 医業収益の推移

平成28年度の医業収益は、患者数や手術件数が伸びたこともあり、4月に行われた診療報酬改定が実質マイナス改定であったにもかかわらず、前年度に比べ1億円余り(4.2%)増加しました。



～市民病院新改革プラン(平成29～32年度)を策定しました～

市民病院では、更なる医療の質の向上と経営の健全化を目指し、本年3月に「市民病院新改革プラン」を策定しました。

新たなプランでは、埼玉県が策定した地域医療構想の内容を踏まえつつ、団塊の世代が後期高齢者となる、いわゆる2025年問題に対応していくため、医師をはじめとする医療スタッフの充実、時間外救急診療の拡充に引き続き取り組み、急性期病院としての病床機能の維持・向上を図ることで、地域の在宅医療・介護を支えるバックアップ病院としての機能強化を目指していきます。

そのほか、病院事業運営の迅速性・効率性を高めるため、地方公営企業法の全部適用化なども検討しながら、より主体的な経営管理体制づくりも併せて進めていきます。

詳しくは、市民病院のホームページをご覧ください。

区 分	数値目標				
	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
救急搬送患者数(件)	863	880	940	1,000	1,000
手術件数(件)	887	900	900	900	900
平均在院日数(日)	14.2	14.0	14.0	12.0	12.0
経常収支比率(%)	97.5	95.9	98.7	99.2	99.4
医業収支比率(%)	86.6	85.6	88.5	88.6	89.3

外来担当医表

市民病院では、平日の午後・土曜日の午前も診療を行っています!

2017年9月1日現在

		月	火	水	木	金	土	
内科	午前	朱	朱			朱	当番医	
		樺 沢		小 林	樺 沢	酒 井		
		八 木	八 木	三 浦	山 本	八 木		
		松 村	古 谷	山 口	松 村	松 村		
		成 川	須賀原	須賀原	大 崎	須賀原		
外科	午前	岡 田	石 塚	石 塚	岡 田	石 塚	当番医 (第2・4週のみ)	
			額 額 (10:30~)		田 中	石 田 (第3週のみ)		
整形外科	午前	清 水	清 水	藤 井	清 水	清 水 (予約のみ)	第1:藤井 第2:榎本 第3:清水 第4:当番医 第5:榎本	
		榎 本	山崎(第1週休診) 藤井(第1週)	榎 本	根岸(第1週休診) 藤井(第1週)	藤 井		
			藤 井 (第1週以外10:30~)			榎 本 (10:30~)		
脳神経外科	午前	白 田	白 田	白 田				当番医
				栗 野	栗 野	栗 野		
	午後			当番医				
小児科(注1)	午前	鈴 木	鈴 木	鈴 木	森 野	鈴 木	鈴木 (初診・急患のみ)	
	午後	鈴 木	鈴 木	鈴 木	森 野	鈴 木(注2)		
皮膚科(注5)	午前		平 原	伊 藤	天 方	麻 生		
眼 科	午前	稲 田	稲 田	稲 田	稲 田	稲 田		
			中 安		中 安	中 安		
	午後	(特殊検査のみ)	(特殊検査のみ)		(特殊検査のみ)	(特殊検査のみ)		
耳鼻咽喉科	午前	小 川	小 川	小 川	小 川	小 川		
		矢 部			矢 部			
	午後	小 川	小 川	小 川(注3)				
泌尿器科	午前	平 野	桜 井	吉 田	平 野	平 野	平 野(注4) (第2・4週のみ)	
		吉 田			大 野	吉 田		
	午後	吉 田		澤 田 (第2・4週のみ)		平 野		

(注1) 小児科の月・火・水・木曜日13:30~14:00は、一般予防接種を行っています。

(注2) 小児科の金曜日の午後外来は、保健センター等の事業のため休診になる場合があります。

(注3) 耳鼻咽喉科の水曜日の午後外来は、手術等の都合により休診になる場合があります。

(注4) 初診受付は10:30までです。

(注5) 外来受付は10:30までです。